

日本観光研究学会全国大会研究発表論文集 投稿規程 2017 年度版

(2013 年度改正)

「研究発表論文集」に掲載される論文は、以下の規程に従い投稿してください。下記規程は投稿原稿の作成にかかわるすべてを網羅したものではありません。各規程が言及していない部分については投稿者が常識的に判断してください。投稿規程を著しく逸脱した原稿については、発表論文を受理せず、全国大会での発表が認められませんので、十分に注意してください。なお、学会 Web ページでテンプレートファイル（第 32 回全国大会論文フォーマット.docx）をダウンロードできますのでご活用ください。

また、2013 年度より Web 上での電子登録・投稿システムが導入され、従来の郵送での印刷原稿の提出に加えて、Web での PDF 原稿の提出が可能になりました。発表希望者は、いずれかの方法で原稿を提出してください。提出方法により、原稿の作成が異なる部分があるので十分に注意してください。

(1) 原稿の作成

応募者は、本規程 (2) から (13) にしたがって原稿を作成すること。提出方法により、(13) の原稿の作成上の注意点が異なるので注意すること。学会 Web 上のフォーマットを活用すると簡単に作成できる。

1) 印刷原稿による提出

原稿をワープロソフトで作成すること。提出された A4 判プリント原稿をそのまま写真製版するので、印字は鮮明であること。ページ番号などは打たず、ホチキスどめしないこと。原稿は折り曲げない形で郵送する。

2) PDF 原稿の電子投稿システムによる提出

原稿を Web 上の電子投稿システムを用いて提出する場合、5 MB 以内の PDF ファイルを作成すること（5 MB を超えるファイルはシステム上、受理されない）。また、ファイルにはパスワードを付けないこと。

(2) 行数・字数・余白など

全体の分量は 4 ページで、超過はみとめない。 1 ページは、ヨコ 24 文字、タテ 43 行、2 段とする。

余白は上 30 ミリ、下 23 ミリ、左右は 23 ミリ、段の間隔は 6 ミリとする。本文は明朝体 10 ポイントとする。

余白、段間隔の調整が難しい場合、上余白は 30～33 ミリ、下余白 21～25 ミリ、左右余白 21～25 ミリ、段の間隔は 4～7 ミリ程度を許容範囲とする。

(3) 表題・副題・英文表題

表題は、明朝体 14 ポイントで太字にする。 副題がある場合、印字は 12 ポイントで、太字にはしない。英文表題は 11 ポイントで、太字にはしない。

(4) 著者名、ローマ字氏名

著者名、ローマ字氏名は 10 ポイントとする。 著者名には「*」を付ける。連名の場合も同様であるが、所属が異なる場合は「**」、「***」などとする。著者が複数名の場合、著者名を 1 行内に並べて記すこと。ただし、著者名が多く、レイアウトが困難なときは、印字のポイントを落とし、字を詰めて

もよい。

(5) 日本語要約

日本語要約は 200 字から 300 字程度、4 行以上 6 行以内とする。行詰めはおこなわない。ただし、文字間隔を若干詰めることはかまわない。印字は 9 ポイントで、左右の行端は、本文の左右行端からそれぞれ 2 字分さげること。

(6) キーワード

キーワードは「キーワード:」とし、日本語で 3～5 語を 10 ポイントで記す。行端は日本語要約とそろえ、本文から左右 2 字分さげる。英文キーワードを補足的に表記する必要がある場合は、日本語キーワードのうしろに () で記す。その場合も「キーワード:」とし、「キーワード (keywords):」とはしない。

(7) 各表記の行間

表題と英文表題の行間はあけない。

英文表題と著者名の行間は 1 行あけ、著者名とローマ字氏名の行間はあけない。

ローマ字氏名と要約、要約とキーワード、キーワードと本文の間はそれぞれ 1 行あける。

(8) 補注、参考文献など

補注、参考文献は、それぞれ、ゴシック体太字・9 ポイントで【補注】、【参考文献】のように表記し、次行から明朝体で 8～9 ポイントで印字する。行詰めはおこなわない。ただし、文字間隔を若干詰めることはかまわない。本文末と補注の間、補注と参考文献の間は 1 行あける。論文の分量は 4 ページなので、補注と参考文献はあまり多くならないよう、最大でも 1 段を超えないようにする。

補注は、本文の該当箇所の右肩に、(1)、(2)、(3) …の記号 (半角) で示し、本文末に一括して掲載する。脚注は用いない。

参考文献は、本文中の該当箇所の右肩に 1)、2)、3) …の記号 (半角) で示し、本文末に一括して掲載する。引用箇所が多く、上記の方法では参考文献の記載が 1 段を大きく超える場合、該当箇所の番号を省略して、参考文献を著者のアルファベット順に掲載する形式を「研究発表論集」の論文に限り認めるが、その場合も引用・参考ページは明記する。原則的には本文該当箇所に番号を振る方法をとってほしい。

参考文献は以下の形式で記載する。

<単行本の場合>

- 1) 著者名 (公刊西暦年号): 書名、発行所、引用・参考ページ
- 2) 引用・参考文献著者名: 論文名 (編著者名「書名」、発行所名)、引用・参考ページ

<雑誌の場合>

- 3) 著者名 (公刊西暦年号): 論文名、掲載雑誌名、巻 (号)、引用・参考ページ

引用・参考ページは、p. 28 あるいは pp. 105-112 のように表記する。

(9) 謝辞、付記

謝辞や助成研究であることなどを記す必要がある場合は、**謝辞:**あるいは**付記:**とゴシック体太字 9 ポイントで表記し、その後に明朝体 9 ポイントで記すこと。本文末と補注の間に前後それぞれ 1 行あけて謝辞の行を配すること。なお、**謝辞:**と**付記:**は併記することは避け、どちらかを選択する。

(10) 所属の表記

所属は1ページ目下端部の2行分を用いて表記する。1行は本文との境界線に使い、境界線下1行に明朝体10ポイントを用い、「*所属」の形で記す。なお、学会Web上のフォーマットを利用する場合は、レイアウト枠、またはテキストボックスを挿入し、記すこともできる。連名で所属が異なる場合は、「**」、「***」とし、著者名の表記部分に付した*印と対応させる。連名で1行におさまらない場合は、ポイントを落とし、字を詰めても良い。所属は、大学の場合、大学・学部、大学・大学院・研究科まで程度とし、大学院生、学部生はその旨明記する。企業、官公庁、研究所などの場合もあまり長くならないよう簡潔に記すこと。職名、役職、学位などは表記しない。

(11) 本文の見出し

本文の見出しはつぎのように統一する。これ以外の小項目はなるべく避ける。

章・・・ 1. 2. 3. (数字は、全角ゴシック太字・10ポイント)

節・・・ (1) (2) (3) (同、半角ゴシック太字・10ポイント)

項・・・ 1) 2) 3) (同、半角ゴシック太字・10ポイント)

数字の後に半角スペースを置く。文字部分は全てゴシック太字10ポイントとする。1

章末は1行空けて次章をはじめる。節末や項末の後は行を空けずに次の行からはじめる。

丸付き数字(①②③…)やローマ数字を本文中で、論旨を整理する目的で使用することは構わないが、節および項を表記するものとして使用してはならない。なお、丸付き数字やローマ数字はゴシックや太字にはしないこと。

(12) 英文・数字の字体

英文(ローマ字)と数字に関して字体をとくに定めないが、本文中にあって明朝体10ポイントの邦文部分に対して、視覚的に極端に強調されるような字体は避けること。

(13) 図・表・写真

図や表は1ページを超えないものとする。図および写真、表には記載順に図-1、表-1のように通し番号をつける。図および写真の場合は下に、表の場合には上に番号とタイトルをいれる。番号とタイトル文字はともにゴシック体太字で表記する。ポイント数などについては、図、表とのバランスを考えて執筆者が選択する。

なお、印刷原稿を提出する場合、図、表は原稿に直接印刷するか、原稿に貼りつける。製版と印刷の過程で多少字がつぶれることを考慮して、文字の大きさを選択する。写真は画像処理したものを原稿に印刷するか、写真を複写してから貼りつける。印画紙に焼き付けた写真を添付したり、そのまま貼りつけることはしない。あくまで写真製版が可能な鮮明な完成原稿として提出すること。

***ゴシック体太字の指示がある場合、印字がつぶれて見づらいようであれば、ゴシック体のみか、明朝体太字でもよいが、視覚的に強調された印字にする。**

(14) 完成原稿の提出

募集要項に記された期日までに完成原稿を提出すること。なお、提出方法により期日が異なるので十分に注意すること。